京城新聞

初等 養鶏經濟學（一）

備中妹尾局區内 模範食鶏場主任 小須賀一郎

養鶏をして穩健に發達せしめんには、經濟學の原理を巧に其事業に運用せしめねばならぬ、經濟學の原理に戻る養鶏は斷じて成功するものならず、茲には純正經濟學めきたる事を書き立てずに、手近かな事例に就て應用的に平易に述べ養鶏經濟の眞味を不知不識の間に了會する所あらしめんとす、されば初等養鶏經濟學の命名は餘りに奚に過ぐるの嫌わらんも、這は標題を清新にし天下の視線を惹かんとする老婆心に過ぎず諸君は之を諒と

◉經濟學上より見たる副產養鶏衰微の原因

今や上下擧つて副產養鶏の奬勵に日も是れ足らぬ有樣なるも[illegible]しく農家の所感を叩けば頗る迷惑なものゝ如し、申譯け的に數羽を余儀なく飼養するものゝ如し、故に毎戸鶏鳴を聞かざるなきの盛況も、流行後れ役人樣の奬勵の聲が少し弛めば昨日までの情況の夫れの如き檜舞臺は一轉寂寥無人の地を行くの感わらしむ、ア、副產養鶏の發達をして永久維持せしめんにはれ役人樣の羽氣に依賴せざるべからざるか、さりとはれ役人樣も御苦勞である、處で副產養鶏は斯くまでもれ役人樣を煩はさなくては發達せぬものであるか、之は少くともれ役人樣に養鶏經濟學の素養がないからではあるまいか、無暗矢鱈に十露盤珠を彈いて奬勵したところで、實際養鶏を營むの段となると、十露盤珠を顧みる暇は斷じてないより多く必要の條件が澤山ある、其必要の條件に一々滿足なる答を爲し得るれ役人樣は一人もあるまい、れ役人樣は其道の素養が無いに是れ或は咎むるものゝ無理であるとして、專門養鶏家をして其局に當らしめなば如何と云ふに、矢張り無益である專門養鶏家は副產的養鶏の技倆は實際ない、試に專門養鶏家に數羽の鶏を副產的に飼はして見たなれば直ぐ判る、其方式が副產的てふ主旨を沒却して專門的に傾いて居る、逆ても普及せしめらるべき方法ではあるまい、專門養鶏家が副產養鶏を奬勵すべく、到る處講話せし事の全然失敗に終ゆるもの則ち之が故であらう、要するに養鶏には專門と副產の二方式ありて、從つて副產的に必要の條件は專門的の夫れとは自ら異ならざるを得ない、何は兎もあれ、副產養鶏の衰微の徵あるを、實際に就て其原因を經濟學上の原理に訴へて述べて見やう

既に專門的でなく、副產的であるからしては、万事輕便を旨とせねばならぬ、別に勞する事もなく、態々暇を潰すこともなく、不知不識の間に養鶏の實利を擧げ得る樣に致し置かなくてはならぬ

◉自由港問題の前途

浦鹽港の商況は例の自由港閉鎖問題の爲見越輸入品停滯の結果一般に沈靜を極め盤の大なりし西伯利亞内地の購買力を喚起せずか暫く此の儘に經過せんには破產者續出せん有樣なるが近く開かるべき露國國會は該問題に對して果して如何なる所置を執らんとするか今尚報道區々にして信憑すべき消息を齎らさず各勝手なる推斷を爲せるも大勢上議に通過したる委員會の決議には多少の修正あるべきも結局一部の手加減にて閉鎖成立すべしとは最も眞實に近かるべき說なるが如し而して之が直接の影響を被る西伯利亞貿易は主要貨物たる野菜類、柑橘類雜貨類共に幾分の課税を免れざるべく[illegible]は必然て貨物の性質上其他に供給し難なければさまで氣遣ふに及ばざるべく且之が爲停滯貨物を一掃するを得て新規需用起るよ當然なれば急激の變化はあらざるべし或は彼の北韓北滿よりの密輸入の如きは本邦の對浦港貿易を驟退するだけの力はあらざるべしと云ふ者あり

文苑

●倭城の嵐

池水生

▲火の物を焼き水の物を濕ふすは眞理なり二と二と合すれば四となるも眞理なる萬古不易の眞理なり此等の外別に眞理あることなし

▲基督教が神を人格的に說明するの時代は過ぎ去て本來本具の精神と說くの時は來れるなり

▲佛徒が客觀的に彌陀を唱へ他力往生を說きたるの時代は過ぎ去て心想的彌陀となし唯一の彌陀已身の淨土となすの時は來れり

▲時代は變遷す歷史はシャンプする人心思想亦變化せざるを得ざるなり時に或は順環す昨是今非今非昨是は之れ此世の常相也

▲基督教は人生を有意味に解す佛教は無意味に解す吾は無意味に發すと雖も社會風敎の爲には亦有意味を贊せざる可らず

（新刊紹介）

◉家禽雜誌 同誌は此の種の雜誌中の白眉なり内容は何れも有益にして趣味多く閑文字の記事としては一篇だもなし學理の方面より或は實地の方面より研究し觀察し得て遺憾なしといふべし（二卷十一號一部八錢五厘東京府荏原郡大崎村家禽新報社）

◉特許公報 韓國に於ける各出願者に對して特許を與へたる特許番號、類別、發明名稱、氏名等を記載し且つ之が發明せし種類を詳述し一々圖解を以て紹介せり（一號一部十五錢統監府特許局編纂日韓書房發賣）

◉貿易月報 九月中に於ける貿易の狀況を記載せり内容は「貿易」「貿易關係の事項」「稅關報告」の三章より成れり（三號關稅局編纂）

●東京經濟雜誌 重要記事としては「年金制度に就て」「委員會傍聽禁止の說」「政府は一層官報を利用すべし」等なり（一部十二錢五十八卷一四六七號）（東京々橋區彌左衞門町東京經濟雜誌社）

五月闇

（七十三） 河合柳葉

大山豐春は、爲雅の室を退ると共に、後室三輪子の部室に來て、平時は次室から伺候するのが例であるに、今日は早や屋敷中が自分の存分になるやうな心がするので、四方を見廻はして、直樣部室の中に入つた。そして敢て憚る樣子もなく、三輪子の前に坐を占めて

[illegible]うけれど、昨日御相談の上で、御前樣へ申上げて置きました、清川の一件でございますが、此方の想像通りに果して、今日御前樣に別室の面會を願ひました上、相變らず頑固を並て御意見を申上げたさうでございまするに御前樣は例と異ひまして今日は何と清川が申しても御聞入れ遊ばさらず、あまり度々頑固の事のみ申上げましたので到頭れ暇をれ遣はしになりましたのでございます。」

「ねーッ、それや眞個のことかね。」

「眞個の事でございます。」

「して清川は奈何しました………。」

「清川は、直樣宅へ歸つて參りましたがいづれ御挨拶には改めて伺ふと、家從の槇村へ申し置て歸つたさうでございます。」

三輪子は莞爾と笑ふて

「では、邪魔者に暇を出したからには、先づ心を許して樂も出來るといふ理だね。」

「それは、然うでございまするが、何を申しましても人目の多いれ屋敷内、殊に御前樣のれ目にでも留りますると、それこそ容易ならない事になりまする、ゆゑ何事も密に致しませんどれ互のためになりませぬ。」

三輪子は妬ましさうな眼色で

「さうして男と云ふものは、惡うも思ひやりが無いか知ら、互に思ふやうに逢ふて話も爲て見たし、樂むでも見たければこそ、邪魔になる清川を出すやうに爲たのぢやないかね、それに屋敷内は人目が多いの、爲雅の目に留まると險呑だとか右透口上ばかり云つて焦らすのだもの、眞個れ前のやうに女焦らしはありや爲ないよ。」

「屋敷に人の多いのは今に始つた事ぢやあるまいし、又爲雅だつて自分の好いた女を傍につけて置けば、我々の事に目なんぞが屆くものかね、那樣心配爲なくても大丈夫ですよ。」

「それや少々恐れ入りました、決して透口上など申すのではございません、唯清川が居なくなつたからと申しましても、人目が多いから、れ互に安心はならないと申上げましたのです。」

「まあ、那樣事は何方でも宜いとして、[illegible]

が私の所へ相談に來なきやならないから、毎日會つて話も出來りや、顏も眺めて居られる理だから、怎樣嬉しい事ないわね。」

「しかし私共が歡ぶのに引替て、清川は私共まで怨むで居るでございませう。」

「だからね、私は清川が居なくなつたら直にれ前を家令に取立てるやうに、それとなく爲雅に勸める意であつたけれど、それではいよ〳〵清川が氣持を惡くするやうなものだから、先づ當分は此のまゝにして置いて清川の心が落付いた頃に、爲雅に話すことに爲ませうよ、それまでは名義は家扶でも家令の勤めはれ前に爲て貰ひます。」

「清川が、貴女樣との間を知らなきや宜しうございますが、どうも此間の辭付では知てる樣子でございますゆゑ、成るべく立腹さゝない方が宜しうございます。」



京城新聞

伊藤公に與ふる書

水浪生

伊藤公閣下、余輩は公の歸任を賀す、公が歸朝中には辭任の說屢々傳はれり、而も所說紛々歸着する所を知らざりき、然れども余輩は公が帝國の大政治家として責任を重ずるを知る故に今にして辭任するが如き事なかるべしと言明したり公も亦各所に於て辭任の意なきを洩らされたり、公が現時の立場として之れ當然の事なりとす、然るに今回歸任せらるゝや亦も辭任說起る何ぞ夫れ公の身邊には辭任說の纏綿して離れざる事や、而して其說を聞くに公は今[illegible]議會に報告を了し來春三月頃に全く辭任せらるべしと、更に怪むべきは今回は任地に留ること僅々一ヶ月に過ぎずと、果して之を事實とすれば余輩は甚だ心細く感ずるのみならず、重大なる責任を負へる公の出處進退としては余りに輕率なりと云はざる可らず、

若し夫れ之を事實とすれば余輩は公に向て問はざるを得ず、對韓政策の整理とは何事を意味するか、公が統監の重任に就てより歲月は三年を經過せり、然れども余輩をして遠慮なく云はしむれば公の對韓政策は未だ整理する迄には進捗し居らざるなり、否未だ完全なる端緖にさへ達せざるなり、然るに之を整理すと云ふ恰も處女が身未だ嫁せざるに生兒の保育を云々するに等しく人をして其無邪氣なるに抱腹絕倒せしむるの外何等の意味をも感ぜざらしむ、余輩は公が斯の如き浮薄的なるを信ずる能はず、何となれば公は其責任上假令保護政治有終の美を見ざる迄も稍々完全の端緖に達する迄は其職を去る可らざる義務非ざる乎而して保護政治の現狀は如何、公が常に重きを置かるゝ治外法權の撤去は如何、其他諸種の政治問題の解決すべきもの多々あるに非ずや、虛心平氣に公平なる判斷を下すは由來公の特色なり、此特色により保護政治の現狀を判斷するに於ては公と雖も心中決して怩怩たるを禁ずる能はざらむ、公自身にして然りとすれば世の公を目するに功成り身退くの資格なきものとなすは豈當然ならずや、余輩は公に對して特殊の信用を有するを以て公の辭任を信ずる能はず、惟ふに公の効蹟を擧るは寧ろ今日以後なるべきを信ずるなり、

余輩は更に公に問はざる可らず、公の効蹟中最も顯著なりと稱する第二協約は如何にして締結せられたる乎、其間の事情は余輩の陳する迄もなく、公の能く諒知せらるゝ所ならむ、然れども由來公は自己萬能にして自己以外には國家を愛し極力國家に盡すものなきかの如く思ふの僻なき乎、帝國五千万人中には公に劣らざる愛國熱忠の士あり、其點に於ては在官たると非在官たるとを問ふべきものに非ず、見ずや維新當時公及其他の元勳も志士として國事に盡瘁せられたるが如く余輩民間にあるものと雖も今日國家の爲に盡すは當然なり、然るを民間の者なりとて之を度外視するが如きは公の爲に取らざる所なり、公は知るや知らずや日韓第二協約は某々等が暗に之を企劃し之が素となり因となりたる結果なり、無邪氣なる公自身は長流に掉して大河を下るが如き感ありしならんも、何ぞ圖らむ、其裡面に於て某々等の潛勢努力ありて逆潮を驅潮に挽回したるなり、公或は努力の眞價を知らざらんも此裡面の力こそ協約締結に於て大なる勵力なるは否定すべからず、何事[illegible]
而して其裡面に於て努力したる某々に[illegible]ゞ斯く言ふ余輩は乃ち其一人なり、故に余輩は協約の精神を充分に運用せらるゝに至ることを熱望するや人一倍なり之れ自然の人情にして之を表面上の責任者たる公に向て要求するの決して不當ならざるべきを信ず、公たるもの決して在官者たると民間の者たるとの別を此間に置く事なく余輩の熱誠なる要求を寬受せらるべきなり、余輩は公が前途の政策に於て第二協約の眞意義を充分に發揮せられんことを望む、翻て公が從來の政策を顧れば此眞意義の運用に於て甚だ誤れることを感ぜずんばあらず、之に就ては余輩は既に屢々警告痛論したれば今更茲に之を追窮せざるなり、唯前途に於て再び之を誤らざらんことを望むのみ、公の明識寬容なる能く余輩の苦言を諒とせらるべきを信ず、余輩は公が協約の精神を運用するに於て根本的改善の英斷を下さんことを勸告するものなり、先づ中央政治には無論地方政治に於ても能く統監の命令權を徹底せしむるの權威を有せざる可らず、統監の一言一句は能く言事に實行せらるゝ權威を有することは統監政治の眞髓なり、統監の職たる素より此崇嚴なる權威を有すべき筈なり、余輩は今日統監の權威行はれずと云ふに非ざるも何となく薄弱なる感を禁ずる能はず、之が爲に往々支障を生じて意の如くならざるの傾向あるは公自身も亦能く諒知せらるゝ所ならん、之れ實に根本の問題なり、而して暴徒の如きも今尙ほ猖獗を極めつゝあり、此等も公の政策にして根本的に改善せらるれば容易に鎭滅することを得べけん乎、若し夫れ公にして荏苒從來の政策を固執せば到底第二協約の精神を充分に運用する能はざるべし、果して然ることゝもならば余輩の努力は水泡に歸し公また曠職の罪を免れざるに到らん、

惟ふに公の聰明なる今日に於て此重大責任を完ふせずして辭任せらるゝが如き事は決してなかるべし、之をなさずして辭任するが如きは所謂九仞の功を一簣に缺くものにして當代の偉人たる公が最終[illegible]試[illegible]ふべからざる汚點を印すると云ふも不可なからむ、[illegible]第二協約の精神を發揮するは公の義務なり責任也、宜しく之を完ふして上は陛下の信任に答へ下は國民の信望に酬ゆる所なかる可らず、余輩の苦言或は禮を失するなきを保せずと雖も之れ統監政治の改善を望むの熱誠と余輩の協約締結に關し裡面に於ける努力者の一人なるを信ずるより來るものなるを以て公の寬容は必ずや何の咎をも余輩に課せざるを信ずるなり、終りに臨んで余輩は公に向つて誠實なる敬意を表す。

東京電報

▲軍司令部撤廢

[illegible]を除くの他全部撤[illegible]決[illegible]て幾に派遣の小倉兵其他は來春內地に引揚げ軍司令部を撤廢し駐韓憲兵隊を守備師團長に隸屬せしむる筈

▲十一月下旬貿易

十一月下旬の外國貿易は百二十二萬圓の輸出超過を見たり

▲日米協約覺書

日米協約の覺書今日發表せらる其の全文左の如し

(一)太平洋に於ける兩國商業の自由靜穩なる發達を奬勵するは兩國政府の希望なり

(二)兩國政府の政策は何等侵略抵抗に制せらるゝ事なく前記方面に於ける現狀維持及び淸國に於ける商工業の均等主義の待遇を目的とす

(三)兩國政府は其の後に前記方面に於て他の一方の有する淸領土を尊重するの堅固なる決意を有す

(四)兩國政府は又其の權內に屬する一切を平和手段に依り淸國の獨立及び領土保全並に兩帝國に於ける列國の商工業に對する均等主義を維持し以て淸國に於ける列國の共通利益を保存するの決意を有す

(五)前述の現狀維持又は均等主義を侵迫する事件發生する時は兩國政府は其の有益と認むる時に關し協商を遂げん爲め互に意見を交換すべし

地方電報

▲守備隊の虎狩

昨卅日午前十時麟蹄邑內に一匹の虎現はれたるを守備隊にて狩殺せり

雜報

●淸國總領事館の祝賀

昨日は淸國皇帝陛下御卽位式當日に付淸國總領事館にては午後二時より內外人の祝賀を受けたるが伊藤統監各大臣次官各國總領事其の他內外文武官多數參館祝辭を述べたり尙在留淸國人は何れも國旗を掲げて敬意を表せり

●仁川淸國領事館祝賀

昨日は淸國新皇帝卽位式に該當せることゝて仁川理事廳高等官及民長代理藤山助役等は禮裝して午後一時淸國領事[illegible]氏を訪問し鄭重なる祝意を述べて退廳したり

●東拓緊急會議

東京に於ける設立事務所に於て去る廿八日午前より午後に亘り正親町委員長、宇佐川中將、勝田局長、其他重なる委員緊急會議を開き設立事務結了後大藏大臣に申告の手續等を決定したりと云ふ

●財務監督局長會議終了

前週土曜日より度支部に於て開會中なりし財務監督局長會議は本日終了し荒井次官の訓示演說ありて散會したるが今夜日本人俱樂部に於て大臣次官より一同に晩餐を供して其の勞を慰すといふ

●學校長會議

三日午後三時より京城民團役所樓上に於て居留地所屬學校長及幼稚園保姆等の會議を開く由なるが當日は[illegible]もある筈なり

●皇城基督青年會

一昨年より新築中なりし鐘路なる皇城基督教青年會館は今回落成したるを以て一昨日より三日間に亘り開館式を擧行せり第一日第二日は基督教會員同學生の集會にして兩日共午前十時午後三時同六時の三回に別ちて祈禱演說等あり司會者及び辯士は日米淸韓の基督教青年團に屬せる名士にして來會者數は兩日共數千名に上り非常の盛會なりき本日は午後二時より內外國人日韓の名士を招待して開館式を擧げ建築の儀式を行ひ會の責任者に入口の鍵を引渡すの儀式を行ひ伊藤統監李總理其他の演說あり午後四時よりソンタク邸にて晩餐會を開催する筈なり因みに新築館は前陸軍正領玄興澤氏其他內外人の寄附になる四万圓を以て敷地を購入し米國前遞信大臣ワグナメーカー氏の寄付金八萬圓を以て建築したるものにして約四百坪の三階作煉瓦建にて最下層の市街に面せる五室は外國青年會の例に倣ひ店舖用として貸付く可く設備せられ木工金工其他の五教室溫室用[illegible]室より成り二階は演說室(約二千人を容る)協議室應接所事務室より成り三階は校長室職員室各一室教室八室及び婦人聽講所より成り其の建築の宏壯なる恐らく京城第一の建築物なり

●私立學校認可請願書式

私立學校認可請願其の他の届書書式は一定せられたるものなく請願者の任意に作製せしむる方針なりしが請願者に於て此れを一定するを以て便宜とするの希望あり且つ實際に於ても出願せるもの〻書式不完全なるものありて當局願者共に不都合を感ずるを以て今回學部に於て其の書式を一定し此れを印刷に付して各地に配付することゝしたれば出願者は此れに準據すべしと云ふ

●學校設立寄附談判

目下地方により郡守其の他が學校設立のため強制的に寄附金を募り應ぜざる者は處罰するものある由にて現に慶尙北道の數郡より其の訴へをなすものあり甚だ不都合に付學部に於て取調中なりと云ふ

●韓辨護士試驗終了

此の程來法部に於て施行中なりし韓人辯護士試驗は筆記口述兩試驗を終了し採點の結果十三名の受驗者中筆記試驗に及第したるもの五名口述試驗に合格したるもの四名なり其の姓名を成績順に記載せば左の如し

黃轍秀、平世榮、鄭求[illegible]、李正

而して右の諸氏は何れも本日夫れ〲及第證書を受領したる筈なり

●南淸一帶の不安

淸國宮廷凶變以來北京にては靜謐の狀態にあるもの〻如くなるが南淸一帶の各地方に於ては過般安慶府附近に起りたる暴動以來人心兢々として今にも革命黨の襲擊を見んと浮說するものあるより業を休み店舖を閉[illegible]の各市に於ては無賴漢徘徊し淸國官憲も其取締に困難し居る狀態なりと云ふ

●加德島漁場の認可

香椎源太郎氏の漁場出願中の加德島漁場は愈々其筋の審議を經て此程認可ありしと云ふ

●支那密輸入船

仁川稅關管轄內に於ける延平列島附近に出沒する支那密輸入船の近狀を聞くに目下同島附近の魚漁は既に終了し漁船の多くは皆引揚げたるを以て從來の如く鹽の必要なき爲め昨今鹽の密輸入船は非常に減少したるが今後同島附近に渡來する密輸入船は吳服及石油等を積載して來り歸途薪炭及大豆と交換して歸航する僅少のものなりと云ふ

●仁川出廻米の增加

仁川に於ける出廻米は每年去月中旬頃より殷賑を極むる例なるに本年は例年に比し頗る遲延し客月中の廻米は頗る尠少なりしが本日よりは愈々出廻盛期に入れるを以て客月に比し數倍の廻荷を見るに至るべしと各米穀商は期待し居れるが既に去る一二兩日の如きは大豆五千石の入津ありたりと云へば籾玄米の廻荷又從つて尠少ならざるべしと云ふ

●天日鹽の配布

仁川商業會議所にては此程天日鹽使用獎勵の一手段として朱安製鹽試驗場より送り來れる天日鹽を遍く各戶に配布したりと云ふ

●仁江間電話工事

仁川局電說係長村上慶治氏は仁川、江華島間警備電話架設工事を督す可く明日出發する由なるが同電話の公衆使用を免許するに至るの期は來年四月頃なるべしと

●十一月中貨客收入

鐵道管理局十一月中の乘客人員は十六万八千四十九人一日平均五千五百一人乘客收入十九萬九千六百五十一圓十八錢一日平均六千六百五十五圓三錢貨物發送噸數七萬三千三百五十三噸一日平均二千四百四十五噸貨物收入十五萬八千五百六十一圓二十一錢一日平均五千二百八十五圓三十七錢全收入合計三十五萬八千二百十二圓三十九錢一日平均一萬千九百四十圓四十一錢なりと云ふ

●十一月中の廻穀高

仁川穀物市場に於ける去月中の廻穀高を十月中のそれと比すれば玄米七百四十九石、小豆百二石小麥二千五百二十七石、白米三百三十七石の減少を來し大豆三千三百七十一石籾三千二十八石を增し荏子は僅かに四石增したるも之れ本年の初荷にして總計に於ては二千六百五十六石の增加を示せり

●常議員の就任

過般開催せる仁川商業會議所定期總會に於て常議員一名補欠選擧の結果石田信一郞氏當選し一昨日就任せり

●井上副理事官の送別會

統監府外務部勤務井上副理事官は今回判事に榮轉し太田へ赴任[illegible]別の宴を開きたり

●十一月取引の穀物相場

仁川穀物市場に於いて取り引きせられたる去月中の穀物相場を比較すれば左の如し

	最高	最低	平均
大豆	五、〇〇〇	三、三〇〇	四、一五〇
小豆	五、一〇〇	四、四〇〇	四、七五〇
玄米	一〇、一〇〇	八、〇〇〇	九、〇五〇
籾	五、〇〇〇	四、〇〇〇	四、五〇〇
小麥	六、四〇〇	五、八〇〇	六、一〇〇
荏子	五、五〇〇	五、〇〇〇	五、二五〇
白米	一〇、四〇〇	—	—

●穀物協會の取扱高

去月中仁川穀物協會に於いて取扱ひたる穀物高を聞くに左の如し

玄米	一、一四四石	大豆	七、三三一	籾	四、一七六
小豆	三四	小麥	四、三二〇	荏子	四〇
白米	五三				
計	三、六二五				

●鶴岡書記官一行の歸任

全羅南北道の沿岸航路及び同地方の產業調查のため出張中なりし鶴岡農商工部書記官本間九助氏等の一行は群山、木浦、珍島、完島、甫吉島、古今島、長興、羅州、光州、南平等の視察を終へ昨日午後歸任せり

●特許局員の出張

統監府特許局塚本審査官神崎審査官補は發明意匠審査調査の爲に水原太田大邱馬山釜山木浦光州群山全州公州の各地を又有賀審査官神尾審査官補は商標審査の爲め元山西湖津咸興城津淸津鏡城會寧の各地へ又安藤審査官は發明意匠取調の爲め仁川群山江景全州木浦馬山大邱太田水原の各地へ一日夫々出發せり

●大倉喜八郎氏　は一昨日仁川を出帆したる安東丸にて群山に向ひたりと

●小原事務官補歸任　兼ねて大阪に出張中なりし鐵道管理局小原事務官補は二日夜歸任せり

●橋本副理事官歸任　仁川理事廳副理事官橋本由太郎氏は黃海道觀察使張儀文氏と同伴一昨夜安州より歸任したり

●明石少將の淸帝卽位敬意

明石少將山形藥師川兩憲兵少佐は二日淸帝卽位祝賀の爲め淸國領事館に到り敬意を表せり

●全警部の出張

仁川警察署全警部は昨日午前江華島に於ける暴徒討伐の爲め巡査○名を引率して同島に向ひたり

●軍馬上陸

駐韓憲兵隊にては軍馬補充として一日釜山に六十頭二日仁川に四十八頭上陸し仁川に受領の爲め憲兵本部より薦重少尉出張せり

●木杯下賜

大阪府平民小林小虎氏は六月連山印馬丸坪小林村尋常小學校敷地三百坪並に建築費備品費敷地買收費金百五十五圓三十九錢寄附の段奇特に付統監より木杯一組下賜せられたり

公人私人

▲長野晉(開城居留民團長)　一日入城不知火旅館

▲石井光雄(大邱農工銀行支配人)　同上

▲吉永貞義(韓國駐箚軍[illegible]陸軍步兵少佐)　一日[illegible]向け出發

▲矢野助羅(憲兵中尉)　一日平壤へ向け出發

●近事片々

▲世界　は今靜平なるが如きも禍機所々に伏在せり巴爾幹彼斯亞南淸等の形勢を見よ

▲各國　平和を愛好せるを以て何れも大事に至らざるべきも速に禍機を消滅すべき也

▲巴爾幹　に於ては塊塞の爭ひ激甚を加へ彼斯も亦不穩の狀態あり何時靜平なるべき

▲淸國　に於ても北京は靜和の姿なるも南淸一帶は例の革命黨益々猖獗の狀を呈せり

▲土國　の國情も何となく穩かならず僅に列國の力によりて其內亂を起さゞるのみ也

▲墺國　合併のボスニアツエルチゴブナは露國に大關係あるの邦土にて故障或は當然

▲此際　に於て公果自由國丈けは列國の承認により白耳義に合併せらる是將された[illegible]運

▲英國　の保護に屬する埃及も其國民憲法制定を要求すとも巴爾幹半島の影響たる也

▲小邦　の細分割幾多の小邦割據するは人類の幸福よりすれば餘り讃たるに事は非ず

▲至深　の關係ありて之を合併するを利ありとする邦土は早く合併するは相互の益也

▲僅に　命脈を保ちつゝ獨立を宣言する巴爾幹諸邦の如き何ぞか統一の法を計る可也

▲何事　も最大多數者の最大幸福を計るを標準とすれば小邦分立は甚だ好ましからず

▲日耳　曼は普國に統一せられて光輝ある獨逸帝國を現出せり之れ好箇の印鑑ならん

▲斯く　考ふれば極東現時の狀勢を見る帝國は平和の保障者として最大責務を感ずる也

▲淸國　の前途も多事ならむ帝國は能く淸國に力を協せて平和の發達を計るを要す也

▲淸國　北部の經營は淸國が能く雅量を以て帝國に信賴せば北方の憂は絕てなからん

▲斯の　如く淸國をして帝國の誠意を知らしむるは帝國外交家の任務也大に努力せよ

▲韓國　亦然り帝國の誠意を諒して安じて我に信賴すれば眞に韓國民大數の幸ぞかし

▲帝國　と韓國とは到底離るべきものに非ざるを知らば更に一層の信賴をなすべき也

寒牡丹(六)

……有爲轉變は世の習ひ……

之も何かの因縁づくか子迄なしたるれタカは夫大事に一家を守り妻たるの操を全うせざるべからざる筈なるに何事ぞ目かなタカな夫の眼を忍びて仇し男に逢瀬ねする不貞の心底初めの中こそ世間の噂に上らざりしも惡事千里の譬は誰いふとなくいつしか此のことが夫吉太郎の嗅ぎ知る所となり同時に雨親の耳に入[illegible]に至りしかば吉太郎より[illegible]女など早速れタカに強意見を加へ果ては親子の縁を切るといふ迄に嚴しく叱責を加へたるにれタカも流石は子迄ある身の良心に咎められてか涙を流して不貞の行を謝しイッソ死んで詫がしたいと迄に身の罪科を悔ひしにぞ夫も別に事を荒立てず吾が子に免じて胸をさすりれタカの罪をば宥し遣りたり

までもれタカは此の道ならぬ不義の淫奔をば心より悔ひしにやソレからといふものは以前に增して一家を治め夫をば大切にし且つ里の雨親にも孝養を盡くし不相變齒磨工場に通ひ居りしが併し幵はホンの當坐の間咽元過ぐれば熱さを忘るゝの譬一旦不義の戀路に踏み迷ひし身は月日の經つにつれて再び情夫のことを思ひ出し煩惱の犬追へども去りやらず焦るゝ思の戀しいとしさ遣る方なく終には吾から人眼の關を忍びて情夫の家を訪ひ果ては一度が二度二度が三度と相嬉の度重なりて又々世間の噂さに上りさうにもなりたるよりれタカは早くも覺悟を極めイッソのこと毒を喰へば皿迄と空怖ろしき心を起し或る日情夫に勸めて駈け落ちの相談をなし夫が汗水垂らして貯金せし二十五圓の金をば掠め取り母親しの頑是なき水兒をば振り棄てゝ情夫と手に手を取り合つて浪華の里にと失奔し一先づ情夫の知る邊なる東區西へ入る藥師前製本業村山方に身を落ち着けしは昨年の冬世間は行き來の人さへ忙はしき師走の下旬頃なりき(續)

●日語教師の遭難

……義氣韓人を動かす……

釜山辨天町二丁目一番地田原方村[illegible]音吉氏は久しく韓國にありて韓語に精通せるより慶尚南道蔚山居住の韓國兩班連の招聘を受け同地にて日語教師をなし居たりしが頃日十數名の暴徒其地を襲ひ音吉氏の寢所へも踏み込み鈍刀を揮つて先づ頭部に斬り付け氏の起き上りさま之れを拂はんとしたるを續ひて八九名の賊徒室内に闖入し來りて再び棍棒又は鈍刀にて滅多矢鱈に斬り刻みたる上更らに麻繩にて後手に縛し猶ほ氏が寄宿しきる韓人夫[illegible]を強迫して金品を出さしめんとしたり時に主人夫婦は戰慄して錢貨四貫文を出して與へたるも暴徒は却々に承知すべくもあらず猶ほ多額の金錢を貪らんとし強ひて之を拒絶せば其生命をも奪ふべしと劍銃を以て益々脅迫したるが先刻より此有樣を目睹し居たる音吉氏は鮮血に塗れながら大聲に汝等暴徒よ余は斯くの如く數ヶ所の重輕傷を負ひたれば最早命を惜しとも思はず主人夫婦は何等の罪もなきものなれば兩人を助け其の替りとして余の生命を絶てよと呼はりたる處暴徒等は愕然として汝は抑も何者自ら命を捨てゝ他人を救はんとはと寄り集ひて訝るより音吉氏は始めて日語の教師なりと告げたるにぞ一同頗りに[illegible]

家人等は漸く虎口を免れたれば音吉氏を厚く介抱し少しく劍痍の癒へたるより村民數名を從はせて氏を釜山迄送還し來り内一名は現に左右に侍して尚ほ看護に盡力し居れりと云へるが村民も日本人の義氣を不思議なりとして頻りに感嘆しつゝありと

●京城音樂會の爲に惜む

……如何なる原因にや……

新開地又は殖民地に於ける人士は聞くもの見るもの落莫として何等之が耳目を喜ばすものなく從つて女色に溺れ飲酒に耽り延ひては遊蕩淫靡に身を持ちくづすは何れの所何れの時と雖も免るべからざる現象にして今更ら言ふを俟たざる所なるが之れ畢竟するに高尚にして優美なる娛樂の機關なきを以てなり而して之が高尚にして優美なる娛樂機關については其の種類一にして足らずと雖もマッ差し當り音樂會の設立の如きは其の最も上等なるものなるべし、而して當居留地に於ては之が高尚にして優美なる諸機關の備はらざるにあらず殊に音樂會の如きは其の設備方法等比較的完全にして會員の數も亦多數なるが唯不思議なことには如何なる原因にや會員同志の間に不平の聲高く從つて會員は日を追ふて脫會し樂手の如きも今は其の聘に應せず昨今にては唯單に形骸上の名目にのみ留まり居るとか云ふ樣り返す之が衰頽の動機は得て知るを得ざるも要するに當事者たるものは宜ろしく其の因つて來る原因を稽査し以て之を矯正し一日も早く會員の滿足と會運の發達とを計られんことを希望せざるを得ずソレかあらぬか近頃に至りては更に他に音樂會を組織し大に居留民の娛樂に資する所あらんとの說を爲すものさへあり、紛々たる世評及び投書を以て強ち此の事ありとは斷言出來ざるも火の在る所必ず烟ありとの諺より推して爰に一言を敢す次第なり

●北署の強盗

……棚橋刑事の手柄……

事件の進行上世に公にする能はず從つて事は少しく曖昧に屬すれども去月二十八日午前二時頃北部大安洞居住張錫鉉(五十)方に二名の韓人強盜押し入り一ッ張を寢床より引き摺り出して庭の大樹に縛り付け同時に家人一同を縛し張に迫つて金の在所を尋ね日貨五十圓の外に衣類十數點及び其の他高價なる家財道具を強奪し且つ食事迄なして悠々引き揚げたるが聽て北部警察署にては妻女よりの訴へに依り早速犯人の搜索に着手したるも犯人は巧みに姿を晦ませしと見ね何等の手掛りもなかりしが其の後同署詰の刑事棚橋氏の熱心なる探偵に依り一昨日午後二時頃難なく捕縛したるが此等の犯人は北春植(四十)朴致三(三十)といふものなり

●店員評判記

日韓書房員　松浦勝太郎氏

外面は温平にして平々淡々の風を裝へども内には牢乎として拔くべからざる堅忍の意思を存し、而も深沈にして商略に富み、[illegible]氏が天性であ[illegible]治氏とは姻戚の關係になつて居る、三十二年渡韓し最初辻屋の店員となり在店八年三十九年日韓書房に移動したのである、韓國に長らくの間在住する丈ありて朝鮮語は巧みなもの發音、句調、抑揚の工合などは少しも朝鮮人と變りがない生年二十五歲、莞爾たる温容、慇懃なる應酬振りは常に顧客をして快感を催うさせて居る現今の地位は店員の總監督及び會計主任である

同房員　遠藤二輔氏

氏は東京府北多摩郡立川の產である幼より書籍商たらんと志し、最初在東京なる主人森山氏の書籍店に入り大に斯業に關する經驗を重ね今では一廉の書籍商人として何所へ出しても恥しからぬ腕前を持つて居る賦性怜悧にして氣鋭、而も事に當つて熱心、身を持する廉直一意商賣の繁榮と主人の利益とを計る事にのみ腐心して居る早くより主人に寵愛され森山氏が當地に店を開く際同道して渡韓したのである年齡二十現今は販賣係りの重任を帶びて居る

同房員　宮地幾次郎氏

松浦勝太郎氏とは親戚の間柄になつて居る生れはヤハリ廣島縣御調郡中庄村、三十九年渡韓し、四十一年一月日韓書房の店員となつたのである、在店未だ一年に滿たざるも商賣の掛け引き、過客の工合は何うして却々老練なものだ、而も勝の緒切つてまだ二十年蓋し性れつき商賣人としての資質を備へて居るのであらう性質從順にして膽略に富み加へて主人に仕へて毫も影日向がない、現今は重もに雜誌「朝鮮」の營業に當つて居る

●密陽暴徒首領銃殺

……密陽循道を荒らせし奴……

去月廿九日釜山憲兵隊及び同署著報告に依れば盛に密陽循道南部を荒らしたる暴徒の首魁林春白は去廿七日再び同地方に出沒し首魁林春白は去廿七日再び同地方に出沒し從がへ其居村(密陽郡)に歸り來たるを密陽憲兵分隊にて探知し即時上等兵一名補助員三名を討伐に向はしめたるが討伐隊は廿八日午前六時首魁林春白を銃殺し他の一名を捕縛としたるが居合せたる四名は逃亡せし由

●鎮南浦強盗被害頻々

近頃に於ける鎮南浦の強盜被害は實に頻々たるものにて現に此間の如きは同管内龍岡郡班石面砂川の市日なる去月廿五日の夜何處より混ぎれ込みたるものか銃器又は棍棒を携へたる四五[illegible]強盗銃外[illegible]箇所に[illegible]入るものは皆銃殺すると脅して時々爆竹を鳴らして銃聲に擬し有ゆる亂暴を働きたる上現金二百四圓九十七錢雜品百五十八點を奪ひ夫より足を轉じて平壤管内金呂倍面院洞に來たり或る雜貨店に押入りたるも出すべき金の蓄へなかりしを憤り店に並べありたる大甕十個を破壞し其足にて同洞は宋村に入り放火五戸を燒き拂ひて何れへか逃走したりと

●お母さん改▲せよ

……阿呆と一盤……

明け鴉其の明け鴉の名に緣ある本町六丁目のとある料亭の家内れタキとかいふは何んぼ水商賣の浮いた稼業とはいへ歷乎とした御亭のあるにも拘はらず倚に妓兒の手前も憚りなく之も女の働きと許りに來る客每に乙な秋波を送り素振りでソレと知らせた利目立ろに現はれて近頃にては四五人の間夫が出來たとの事ソレかあらぬか昨今にては客足頓と減じ妓兒等は每晩く〳〵れ茶を曳き春着の仕度さへも覺束なく『此れもれ母かさんの極道から……』と皆々歎聲を洩らし居るとかの投書ありたりもし本當のことゝすればれ母かさんたるものよろしく改悛しては何うかな

●小便が五圓となる

一昨日午後四時頃南署管内竹園町居住中村某方にて一人のチャンコロか立小便を爲し居るより中村はそれを咎めたるにチャンコロは不埒にも却て中村に向ひ暴言を吐きたるより茲に端なくも喧嘩を始めヤッサモッサと摑み合つた揚句チャンは顏頭部を中村より打ち割られて大にチーパーり其旨を泣き面下げて銅峴分署へ訴へ出でたるが結局中村より五圓の治療代にて事濟みとなる

●下宿業かい屋の開業

元南山町原金旅館の女中頭を勤め居り律義なる婦人として一般の顧客より褒めそやされし河野かめなるものは今回壽町三丁目十番戸橫小路(元花屋跡)にて下宿屋を開業せしが客室の清潔に加へて什器家具は一切新しく且つ下宿料も安價なれば[illegible]自ら[illegible]を[illegible]の懇切なること相俟つて定めて下宿人も多かるべし

●一昨夜の新町

相變らず不景氣なるか一昨夜の登樓者總數百二十名遊興高六百七十三圓六錢一厘なり

平民(

▲京城の料亭は實に高價である、以前は巡査さんなんかゞ大手を振つて[illegible]たと云ふが然らば其の理由をと探つて見ると統監府が出來たからだそうだあくまでも統監府は駄目の骨頂なり(本町より左へ入る人)▲本町六丁目の靴屋の娘は娘ではない妻君だと言ふが事實相違なきや知らせて呉れた人には懸賞一切聞入申候(旅の人)▲僕は花月の辰子が此の間番やで丼を喰つてゐたのを實見したがあれは實に見苦るしいものだ(三八立見會)▲花月のれ神が此間漢城病院で大治術を受けたと云ふが如何な病氣だか知りていものだナ(其筋の太郎)▲新町はあまり値段が高い二圓位に引下げたら如何若し此の議を容れざるに於ては大に覺悟があるが樓主等よく研究して置くべし(登眼主人)▲寒月高く照す時一群の過雁空にむり仰ぎ見れば徐ろ故鄕を思ふ(哲學趣味)▲小生明朝南大門發の汽車にて北米合衆國へ旅行するにつき御通知申上候(此の花生)▲豆腐が一錢上がつて五錢になつた(豆腐好き)▲南大門は立派になつた第一電氣が振つて居る(通行人)

●天氣豫報(自二日午後六時 至三日午後六時)

西風晴後曇

二日午前六時各地氣象概況 高氣壓韓國中部にありて區々の風吹き南西部は曇天其他は晴天なり



▲無料紹介欄▼

人事部

●奥服商 に多年經驗あるもの雇はれたし 年十九 氏名在社（一〇五）

●官衙 の給仕に雇はれたし年十八 氏名在社（一〇六）

●被雇度 後備役海軍一等機關兵年廿六歳 機關の運轉取扱へ雇はれたし普通學有韓語に通ず給料多きを不望氏名在社（一〇七）

鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ 同縣人（一〇八）

店員入用
新炭商に經驗ある者數名雇入たし 壽町三丁目金澤商店（一一一）

●雇れたし 年三十九中等教育有算筆熊本縣院會社の受附又は商店の帳場員を望む 氏名在社（一一二）

●雇れたし 年廿六身体頑健職業を擇はず 相當の家に雇れたし 氏名在社（一一三）

●看護婦至急入用 明治町一丁目松岡醫院（一一八）

●女子見習生募集 委細面談 本町六丁目中村齒科醫院

●韓語速成教授 本町六丁目六五韓語速成講習所

崎村君
御親切なる御言葉厚く御禮申上候 石村生（一一五）

下女入用
望の者は本人來談あれ 氏名在社（一一六）

女中入用
裁縫の心得ある人を求む 旭町一丁目競賣所（一二〇）

●英韓語無料教授自午後六時至九時永樂町三丁目二十一番戸ノ四 上田生（一二二）

●二十歳迄の店員五名身元保證人ある者雇入たし 姓名在社（一二三）

●雇はれたし 年廿六西洋料理に熟練旅館料理店又は素人家にてもよし給料不望確實の保證人あり 氏名在社（一二四）

物件部

賣地
本町八丁目通り地所四十坪温突十間建家の價格安にて至急賣却す 姓名在社（九九）

賣地
京仁線南大門停車場近所在上水田四石落安價にて賣却す希望者は至急申込あれ 旭町二丁目京城興信所（一〇二）

賄付貸間
あり 氏名在社（一一七）

古着
其他御不用品買受けたし 旭町一丁目競賣所（一一九）

貸間
旭町一丁目便利の場所にて六疊二間二階貸したし望の方は御來談被下度候 旭町一の六十京仁商會（一二一）

便利の場所にして電話の備もあり官吏向き八疊四疊五つ間二階貸間あり電話六五九番に御照會あれ（一一〇）

廣告

開業御披露
東京 豆腐 一丁四錢 京城旭町二丁目 いづみや

宇治名産 茶
㊔ 紅茶コーヒー 茶道具 卸小賣 開春園 京城旭町二丁目

木炭石炭 卸
壽町三丁目 今福商會

土耳古煙草直輸入大販賣
本邦ハトルコ最大貴製造會社ニシテ其製品ハ原料精選其風味ハ良好無比ナレバ夙ニ世界各國ニ最多ノ輸出アリ今般カ好評ヲ以テ迎ヘラレツヽアリ卸小賣トモ廉價ニ販賣仕候

京城本町四丁目 角 デーエス、パチリス會社出張所

仁川港本町通 仁川代理店 穎原兄弟商會

▲轉宅荷物運搬
（京龍間建築土木材料其他諸貨物の運搬及び人夫請負）

弊店儀今般右の營業を開始仕候に付ては貨物の多少又は土地の遠近に拘はらず御報知次第直ちに店員を派出して御用命に應じ可申尚は弊店は責任を重んじ万一御委託物に對し店員の不注意より損害を加へ候節は弊店に於て其賠償の責任に決して御損失は相掛申間敷候間續々御用被仰付度此段謹告候也

京城南大門通り二丁目 二十番戸三浦商店向側

店主 有田豊太郎

有田運送店

純良清酒アルコール
直輸入元 坂倉支店

仁川花町一丁目（電話六五〇番）（電略サ）



代理店

新井藥房本店 京城南大門通三丁目
新井藥房第一分店 京城本町三丁目（電話四七八番）
新井藥房第二分店 京城南大門外

外國直輸入品
リノリーム ジウタン 新荷着

京城支那領事館通 清韓洋行 電話四九四番

石炭直輸商
（ストーブ用は一俵以上配達可仕候）

京城旭町一丁目 島與商會出張所

西洋家具製造及建築家屋請負
小生儀從來太平町に於て前記の業務に從事致居候處今回都合により江洞諸彦の御引立に預り日増しに隆盛に赴き候に付今回營業擴張の爲め左記へ移轉し熟心迅速を主とし一層勉強可致候間倍舊御引立に預り度此段御勉露申上候也

京城南大門外御成町 大原松次郎 電話二四七番

周防德山海軍省煉炭所東隣
谷口無煙煉炭工場

無煙煉炭 特色 火力強く火力耐久價格低廉 用途 汽罐、鍛冶、暖爐、竈用に適す

京城大阪町 京城出張所 電話六〇三番 巴商會 韓國一手販賣 京城太平町二丁目

▲京城産婆案內▼

內務省免許産婆 伊集院 永樂町一丁目 電話三五八

內務省免許産婆 京城旭町一丁目（民團役所横向） 岩永重乃 妊婦、産婦ニ限リマッサージノ依頼ニ應ズ 電話六五九番取次

壽町三丁目 酒井（以下不鮮明）

內務省免許産婆 京城南山町三丁目 堀越直子

大東看護婦 助産婦 京城永樂町二丁目 大島壽美 岡上君代

內務省免許産婆 壽町三丁目 脇川きく

明治二十五年內務省免許産婆 本町六丁目 田淵左姬

內務省免許産婆 南山町三丁目 杉原ハナ

宮內府免許産婆 京城南山町二丁目 原口都矢

內務省免許産婆 明治町一丁目四番戸 惠愛看護婦會 岡宮龍子 電話一七二番



株式會社 第一銀行
電話番號
第一二番 國庫部、營業課、當直用
第一三二番 國庫部、發行部、營業課用
第一六番 支配人、調査部、文書課用
第二二六番 用度係、分析所用
第三三二番 臨時部建築部用

高等御下宿 開業御披露
大和館

京城大和町一丁目（日の出橋東詰）

新聞衛生用具目 新曁及表装並調進 竹中彥太郎 電話六七〇番

インペリアル GDS 土耳古煙草直輸入卸小賣
本品ハ特ニ原料ヲ精選シテ製シ特色ノ風味香氣ヲ有シ最モ高尚ナル飲料ニシテ來客用ニ適セリ

ジーデーシエリス會社出張所 明治町壹丁目 エムジーシエリス

洋服裁縫
小松屋 京城長谷川町一丁目

京城皮膚病梅毒院
梅毒、癩病、横痃、痔生殖器、皮膚病專門

南大門韓人朝市場裏第壹銀行舍宅横通 米倉町官舍下度支部官舍角

諸印刷 名刺 ハカキ
勉強の赤心を黒く書く

仁川活版支店

開店披露
允
染地手拭太物製造販賣
御印入誂品ハ美麗ナル二日仕上ゲ無代進呈ス
允坪屋足袋製造販賣
四ツパセ千鳥縫ノ別製品
戸關蚊帳株式會社特約店
羅紗インバコート服類販賣元
びん付石鹸一手特約店
㊍

來ル十二月五日全部品揃致候開業賣出シハ十二月一日ヨリ京城賣元價向フ卅一日マデ正價ノ一割引

明治町一丁目（元帝國館） 允 桑原久藏商店 電話四八三番 電略ヤマク又ハ（ク）

龍山旭段通り 桑原支店 電話百十二番

神田組

易斷觀相及教授
三一館
商號撰 黃文舘 近は來舘遠は郵便にて

日韓官吏錄
京城南大門（以下不鮮明）

販賣取次 實價金 郵券代用

日本郵船株式會社 瀛船仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡回漕會 電話三九番
城南大門通 巴商店 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 十二月二十日後三時出
●大連行 高砂丸 十二月八日後一時出
●大連、芝罘、秦皇島行 山東丸 十二月八日前五時出
●大連行 酒田丸 十二月廿二日後一時出
●釜山出帆、浦鹽行 立神丸 十二月二日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月金卅五錢 三ヶ月…… 前金ノ外不申受
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲讀賣五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西小門通 電話六六三番